

令和6年度 学校経営報告

八王子市立元八王子中学校

校長 山口 徹

1. 教育目標

- 学ぶ心 ○ 自主の心 ○ 思いやりの心

2. 校訓

- 勤労 ○ 自主 ○ 誠実

3. めざす学校像

- ◎ 生徒一人一人が成長する学校 ○ いじめのない学校
○ 地域を大切にする学校 ○ 教職員が教育活動に責任をもって取り組む学校

4. めざす生徒像

- ◎ 主体的に学習に取り組む生徒 ○ 自ら学校や地域の行事に積極的に取り組む生徒
○ 自分や他人を大切にする生徒 ◎ 自制心とやり抜く力をもった生徒

【成果と課題】

- ・学年が上がるにつれ、自らの進路を意識して授業に取り組む生徒が多い。しかし、基礎学力が定着していない生徒に教室で落ち着いて授業に取り組む姿勢に課題が残った。
- ・体育大会や音楽祭などに意欲的に取り組む生徒が多かった。また、青少対のクリーン活動も日曜日から土曜日に変更したことや定期テスト前から日程を変更したことで部活動前に参加する生徒が増えた。
- ・週1回のいじめ防止対策委員会を通して、いじめと疑われる事案もいじめとして認知し対応したため、いじめの件数は多いが、学校サポートチームに報告し対応方法に意見等をいただいて丁寧に対応してきた。
- ・自制心ややり抜く力については、朝礼等で日頃から生徒に伝えてきたことで3年生の多くの生徒で意識して教育活動に取り組んでいることが学校評価から読み取ることができた。

5. めざす教師像

- ◎ 常に向上心をもって学びあう教師 ◎ チームとして成長する教師
○ 生徒・保護者・地域から信頼される教師 ○ 教育公務員として自覚と責任をもった教師

【成果と課題】

- ・今年度は、4名の新規採用教員の配属があったため、指導教員を中心に丁寧に指導を行ってきたことで、年度当初よりも自信をもって教育活動に取り組む姿が見られた。
- ・授業研究に対しては、昨年度よりも実施時期が遅れるなどみんなで学ぶ意識に課題が残った。
- ・いじめや生活指導、支援を必要とする生徒への手立てを全校で情報を共有し、取り組むことで学習指導や生活指導について職員室内で話し合うことが多く見られた。
- ・年3回の服務研修や朝の打ち合わせ等で、適宜教職員に服務事故やヒヤリハットを伝えることで個人情報の紛失や交通事故等に意識することができたことで、事故を防ぐことができた。

6. 中期的な目標及び達成させるための方策

重点目標1 「生徒一人一人の学力の向上」

方策

① 基礎・基本的な学力の定着

- ・グループ学習など協働的な学びや繰り返し学習及び習熟度別少人数学習（数学・英語）の実施。

- ・分かる授業のために情報機器（タブレット、電子黒板など）を効果的に活用する。
- ・小テスト・定期考査・各種の学力調査の結果をもとに個に応じた指導の実施。
- ・生徒が自主的に家庭学習に取り組めるように家庭学習の手引きの見直しとミライシードを活用する。
- ・ボランティア等を活用した放課後（年 20 回程度）や長期休業中（5 日間）の補習教室を実施する。
- ・小中一貫カリキュラム（元八王子小・武分方小）の実施。

② 学習意欲の向上

- ・全教育活動において、体験や問題解決的な学習を取り入れ自制心ややり抜く力を身に付けさせる。
- ・できたことを褒めることで自己肯定感を高め、主体的な学習態度を身に付けさせる。
- ・キャリア教育を通して、夢や希望を実現させる気持ち（意識）を高める。
- ・学校司書による読み聞かせなどを通して、10 分間の朝読書の定着。
- ・学校司書との協働による図書館を活用した授業の実施。
- ・発問の工夫とともに対話的な授業を取り入れ学習意欲を高める。
- ・SDG s を総合的な学習の時間等の柱として、現代社会における課題に目を向けさせ一人一人に課題解決の方法を考えさせる。
- ・郷土学習を通して、身近な地域の課題から学ぶことの必要性に気づかせる。
- ・週 1 回の特別支援委員会で、支援を必要とする生徒の手立てを検討し、全教員で共通実践をする。

③ 授業力の向上

- ・全教師による年 1 回以上「主体的・対話的で深い学び」の授業研究と協議会を 9 月までに実施し、授業改善を図る。
- ・校内研修「生徒の実態に応じた指導法の改善、生徒指導の在り方、ICT 機器の効果的な活用方法、指導と評価の一体化、特別な支援を要する生徒への理解」の実施。
- ・年 2 回（6 月・12 月）生徒による授業評価の実施。
- ・9 月に授業評価と学力調査（全国・都・市）による授業改善プランの作成と実践。
- ・学習規律の定着。（チャイムと同時に授業の開始と終了）

【成果と課題】

- ・必要に応じて授業でグループ学習などを行うことで、生徒同士の学びあいを通して学習意欲の高めることができた。
- ・電子黒板等の情報機器を授業に活用することで、視覚的によりわかる授業を実践することで授業の理解も深めることができた。
- ・各教科で小テスト等を実施し、反復学習をすることで基礎学力の定着を図ることができている。
- ・昨年度に引き続き、年 20 回程度の放課後の学習教室を実施したことで、家庭学習に取り組む生徒がわずかであるが増えてきている。
- ・小中一貫カリキュラムを通して、地域の児童・生徒の課題を解決させるための取り組みとして、相互授業の参観や出張授業を行った。
- ・生徒の頑張りの評価、キャリア教育、朝読書などで学校図書館を活用することで、学習意欲の向上を高めることができた。
- ・総合的な学習の時間を中心に SDG s を取り上げ、現代社会の課題を考えさせることに取り組んできたが、課題解決までの取り組みができなかった。今後、教員間で SDG s に関する研修に取り組む課題解決までの意識を高めていくことが必要である。
- ・郷土学習での取り組みでは、八王子の良さや新たな発見をすることができ、自分たちの街をよりよくする意識が少しずつ高めることができた。
- ・週 1 回の特別支援委員会を通して、全教員で生徒の困り感を共有し、学習環境や意識的な声掛けを実

践したことで落ち着いて授業に取り組むことができた。

- ・授業評価や学力調査等を通して、生徒の実態を的確に把握し授業改善を図ることで、わかる授業を実践することができた。ただし、教員間での学びあいとしての授業研究が予定していた時期よりも遅れたので、今後は計画的に授業研究を行っていくことが必要である。
- ・校内研修を通して、適切な評価や ICT 機器を効果的に授業で活用することができた。

重点目標 2 「生徒一人一人を大切にした教育活動の充実」

方策

① 人権教育の充実

- ・特別の教科「道徳」を中心に、生命尊重・人権尊重の精神を育む。
- ・週 1 回の学校いじめ対策委員会の実施、年 3 回の生徒へのいじめアンケート調査、年 3 回のいじめに対する授業、年 3 回の教員対象としたいじめ研修を通して、いじめに対して絶対に許さない態度で早期発見・早期対応に努める。
- ・二者、三者面談の実施、スクールカウンセラーの活用を通して、教育相談を充実させる。
- ・特別支援学級との交流活動を通して、思いやりの心を育てる。
- ・生徒の模範となるように生徒の人権を尊重するとともに生徒と教員とであいさつ運動を実施。

② ルールとマナーの徹底

- ・年度当初に生徒に授業や学校の決まりを守ることの大切さを説明し、自制心ややり抜く力を身に付けさせる。また、生徒のよりよい成長を願って、学校と保護者との協力体制をつくる。
- ・生徒と共に学校のルールを見直し、授業規律をはじめルールの意義を理解させ、自ら判断できる力を養う。
- ・授業開始・終了時のあいさつを通して、マナー教育を充実させる。
- ・落ち着いた学校生活を送るために教室の整理・整頓をし、学習環境をつくる。
- ・問題行動に対しては、教職員間の連絡を密にし、的確な把握と迅速な対応を図る。

③ 体験活動の充実

- ・学校行事や部活動を通して、達成感や成就感をもたせるとともに自制心ややり抜く力を身に付けさせる。
- ・地域の行事に参加させることで、地域社会の一員としての自覚をもたせるとともにボランティア精神を育む。
- ・近隣小学校の補習教室への参加を通して、学ぶことの大切さや思いやりの心を育てる。

④ キャリア教育の充実

- ・職場体験や職業講話を通して、社会に貢献することの大切さや働くことの意義を理解させる。
- ・高校の先生の話聞く会やキャリアパスポートを活用して、主体的な進路の選択と将来設計を考えさせる。
- ・地域の人材を活用することで、自分の将来をより身近なものとして考えさせる。

⑤ 安心・安全な学校

- ・月 1 回の安全指導や避難訓練を通して、基本的な知識や技術を理解し、自ら判断して行動する力を身に付けさせる。

⑥ 不登校傾向のある生徒への手立て

- ・不登校傾向のある生徒に対して、Web 会議ツールを活用し面談や学習サポートの実施。

【成果と課題】

- ・特別の教科「道徳」を中心に、各教科で人権教育に取り組むことで他者への思いやりの心の育成を行う

ことができた。

- ・年3回のいじめアンケートやいじめ防止授業を実施したことで、いじめに対する意識を高めることができた。しかし、SNSによるトラブルからいじめに発展することが見受けられたので、今後もSNSの使い方を生徒や保護者にも周知していく。
- ・今年度も生徒会や各種委員会を中心にあいさつ運動に取り組む姿が見られた。特に学年全体で取り組むことで、あいさつを通したコミュニケーション能力の育成を図ることができた。
- ・多くの生徒は、ルールやマナーの大切さを理解しているが、一部の生徒にルールやマナーを守る意識が低いので、引き続き生徒や保護者に啓発をしていく。
- ・PTAと連携し、部活動等で活躍した生徒のために横断幕を作成・掲示し、生徒の達成感や成就感をもたせることができた。
- ・青少対のクリーン活動に部活動単位や個々での参加する生徒が増えたことでボランティア精神を育むことができた。
- ・職場体験や職業講話などを通して、多くの地域の方々と接することで、自分の将来を真剣に見つめる姿勢が見られた。
- ・小学校と一緒に引き取り訓練を行うことで、地域の児童たちを中学生が見守る意識を高めることができた。
- ・不登校傾向にある生徒が、大学生や地域の方々に学習サポートをしてもらうことで、安心して登校することができている。また、必要に応じてWeb会議ツールを使用することで、安心して家庭学習に取り組むことができている。

その他

- ・保護者や地域の方に学校の教育活動を理解してもらうために多くの情報を発信する。
- ・地域運営学校・青少年対策委員会と連携し、地域の教育力を学校教育に生かす。
- ・教職員が、地域の活動に積極的に参加し連携を深める。

【成果と課題】

- ・HPや学校だより、学年便りなどを通して、学校での生徒の様子を発信することができた。また、Home & School を適宜活用し、保護者に情報が伝わるように取り組んだ。ただし、情報発信が遅くなることもあったので、今後早めに発信していくようにする。